

ンの約100倍近い金額である。ちなみに、筆者の昭和22年4月1日付けの初任給は本俸月額390円であった。

そのような劣悪な経済状況の時代でも、敗戦により世界の四等国に落ちた日本を再び文化国家に再興するためには「まず教育、特に科学教育が必要だ」ということが「合い言葉」のように国民各自の自覚を促し、それぞれが努力を惜しまなかったものと思われる。兵庫県生物学会の創設は、その一つの具体的な現れである。

衣食住も充分とは言えない状態の中にあっても、わが兵庫県生物学会の活動状況を見ると、昭和22年6月に発足し、さっそく7月から、それぞれの支部で採集会や観察や実験実習の講習や研究会が着々と計画実施されているのに全く頭が下がる思いである。前記の生物学会の活動行事の中から、特に印象に残っているものを2、3紹介したい。

その1. 昭和23年4月25日三木茂博士指導により江井が島方面の採集、見学会に参加した日のことが、ついでこの間のことのように懐かしく思い出される。三木博士は質素なナッパ服に、汗に汚れた登山帽姿で、親しくご指導いただいた。溜め池のオニバスやミクリなどを観察し、中八木海岸では博士が黙々とメタセコイアの化石化した球果を掘り出されるお姿は今も忘れられない。

その2. 昭和23年8月7～11日洲本市柳学園で行われた臨海実習。その当時の柳学園は洲本の海岸（大浜公園）近くにあり、海水のくみ取り、海藻やウニの採集などにも便利で、実習の場所としてはまことに好適であった。講師として広島文理大の瀧巖先生のタコの話もおもしろく聞き、ウニの発生実験やプランクトンの観察には兵庫県出身の稲葉先生に親しくご指導をいただいた。

宿舎は柳学園さんの二階の大広間をご提供いただいた。理科の実験室をお借りして実習させていただき大変ありがたかったことを今も感謝の念で思い出される。参加者80名。

その3. 昭和24年8月9～12日生物指導者講習会。

第1日、第2日は灘高校で行われ、講師は阪大医学部の藤田武夫博士で、特に第二日目のイモリの赤血球のゲラチン銀染色法の実習はすばらしく、50年近く経過した現在でもその時作成した永久プレパラートは今もなお健在である。

第3日、阪大医学部久保教授の生理学研究室で、生きた犬を実験材料としたデモ実験は今でも明瞭に記憶している。

第4日、阪大医学部の安澄教授の研究室でアメリカ製の最新式の電子顕微鏡でケイソウなどを見せていただいた。その時の顕微鏡の大きさは高さが3～4mくらいあったことを記憶している。

おわりに

兵庫県生物学会発足初期の主な年間行事を列挙して、その中から2、3の特に思い出深い断片を紹介した。おわりにあたり特筆したいことは、その当時の給料をはじめ衣食住の極めて不十分な時代にもかかわらず、一流大学の諸先生方が地方の採集会や、講演会、講習会、研究会などにたびたび出向いていただいたり、大学の研究室を開放して、親しくご指導くださったこと、また、当時の生物学会の運営にあたられた先輩諸氏がなみなみならぬご尽力をされたことに対して深甚な感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げたいということである。

(こんどう しょういちろう：会計監査)

竜野支部発足当時の活動

杉田 隆三

現在の西播支部は、学会発足当時は姫路支部、竜野支部、赤穂支部に分かれていた。竜野支部発足当時には元会長の福田政次郎氏、三浦佳文氏や、成定五郎氏などが居られ福田氏が支部長であったと思う。当時の支部活動を手元に残っている資料で辿ってみる。

○22. 7. 20 竜野支部発会式…役員、規約の決定と懇談会。当日は参加しなかったのでその様子は判らない。支部会費年100円（入会金20円）。

○22. 8. 7～9 奥谷国有林植物採集会 講師：室井、建部氏 参加者：室井、建部、成定、森本、苗村、久宗、藤平、三宅、三木、島津、小谷、栗岡、吹田、谷畑、杉田、龍中生1名など（会誌には40名とある）経費60円（室井氏と私の最初の出会い）。

1日目 山崎宮林署に集合、宮林署のトラックに便乗し、12時に兵庫県公営署（引原ダム建設事務所）日の原合宿所に着く。昼食後、付近で採集。

2日目 音水溪谷で採集。100種あまり採集する。

3日目 9時30分宿舎発、宮林署の林用軌道（この後は現在サイクリングロード）のトロッコに便乗、上野土場に11時に着く。スリル満点だった。

○22. 8. 29 鶏籠山植物採集会…講師：室井氏、参加者：福田、成定、丸尾、青木、森本氏外44名

9時、竜野小学校に集合。校内の植物を観察してから11時に旧竜野高女の裏から上り紅葉谷に下りる。そのあと中原氏所有のカシボチクを見学する。

○22. 9. 21 竜野小学校で支部総会…成定、中山、鯉田、建部、杉田の研究発表あり。

○22. 12. 20, 21 採鳥会と講演会。講師：京都大学名誉教授 川村多実二氏。

1日目 午前、揖保郡林田村の鴨池で採鳥会。午後、林田中学で「鴨」と題して講演会。

2日目 午前のみ、竜野中学で「鳥の鳴き声」について講演会。参加者：福田、森本、大浦、苗村、小野、島津、杉田など。

○23. 8. 3～5 船越山植物採集会 講師：紅谷（鮮苔）、川崎、室井（植物）、古川（貝）、田中（昆虫）の各氏。参加者：紅谷、川崎、室井、古川、田中、木下、永井、久宗、内海、建部、早川、大賀、田浦、梅田、堂本、小谷、森本、平野、松井、永谷、保坂、杉田など。

1日目 午後1時、宿舎の三河中学に集合、打ち合せ。

4時より紅谷、室井、古川各氏の講義。夜、座談会。

2日目 8時、船越山に向かって出発、中腹で昼食。その後、日本一の木登り名人・岡梅太郎さんの木登りを見る。この日、川崎氏により新種のスズダケが発見され、室井氏によってルリデラスズダケと命名される。夜、座談会。

3日目 8時より座談会、10時解散。

○23. 8. 17, 18 臨海実習 講師：中山二郎氏 場所：室津小学校（1泊）。参加者：三浦、中山、浄徳、建部、苗村、三宅、栗岡、小林、松田、杉田。費用50円。

1日目 午後1時から磯採集とプランクトン採集。

2日目 午前4時からプランクトン採集。8時からウニの人工受精とプランクトンの観察。

○23. 10. 25 鶏籠山植物採集会 講師：陸井初治氏、参加しなかったので詳細不明。

（すぎた りゅうぞう：常任理事）

敗戦前後の丹波地方の自然研究

松山 確郎

敗戦前－兵庫県博物館の頃

戦前の昭和10年頃から丹波地方の若い先生方の自然研究、殊に植物採集が熱心に行われはじめた。博物学会の阿部良平・山鳥吉五郎・大浦茂樹・川崎正といった方々の指導をうけ各地で採集会が開かれている。なかでも多紀郡の樋口繁一、水上郡の細見末男は小学校勤務の傍ら、京都大学の田代善太郎先生を度々丹波に迎えて指導をうけ、また、標本の同定によって丹波の植物分布を明らかにしていった。同時に田代先生に指導をうけていた県立柏原高女の藤原忠一郎・原田春男が『妙高山植物誌』（昭和9年3月、水上郡教育会）を著した。つづいて細見末男が『水上郡植物誌』（昭和13年、前山小学校）をまとめている。樋口繁一は特に度々、田代先生を迎え、多くの珍しい植物を発見した。また北系・南系別の多紀郡及び水上郡の詳細な分布図を作成している。県の天然記念物調査委員山鳥吉五郎を細見末男と共に案内し、丹波地方の特異な植物などを明らかにしている。樋口は、

また、植物のほか、両生類、淡水魚なども調べて会誌その他に発表した。これら研究者の足跡の一部は『田代善太郎日記 昭和編』（1973年、創元社刊）に詳しい。

昭和16、7年頃から非常時体制に入って採集行も困難となりはじめ、ついに敗戦に突入した。

敗戦前後－研究者加わる

敗戦前後の窮乏は、はげしい人事の異動を起こした。松山確郎が大阪池田師範から県立柏原中学校へ（昭和18年）、井上三義が加古川高女から県立柏原高女へ（昭和20年）、山本義丸が東京文理大動物科卒で母校県立柏原中へ、大西勲が県立柏原高女へ、それぞれ故郷へ帰った。さらに水上郡では細見末男と採集行を共にした山田実・小森貢・芦田泰嗣（共に小学校理科担当）、多紀郡では西脇徹・前川逸治らが加わった。

敗戦後－兵庫県生物学会支部のはじめ

敗戦後の混乱がおさまリ、上記の人々によって水上支部・多紀支部ができた。水上支部では井上三義が支部長となり会員を募集し、水上教組文化部長の細見末男と共に活動を開始した。多紀支部では樋口繁一が支部長となり、森為三会長在任とて先生方と共に採集会を度々開いた。

水上支部では、昭和22年秋には三木茂博士を迎えて、講話・水草採集・七日市市炭層中の植物遺体採集等の指導をうけ、翌23年6月には京大名誉教授川村多実二博士を迎え、妙高山で探鳥会を開いた。また、同年4月から『水上郡の自然研究』という表裏一枚のガリ版の研究記録を毎月発行、支部会員や各学校に配布した。採集会の案内やその記録、会員の研究発表などを載せている。

昭和25年、水上教組文化部で『水上の自然 第一集』、昭和28年、第二集が会員有志分担執筆で出版された。多くの地形・地質・植物・野鳥などの専門学者を迎えて指導をうけ、雑誌『ひかみ』特集号として妙高山・粟鹿山・佐治川・竹田川の出版が後々へ続いた。当時の支部会員数は、水上支部で昭和25年度36名で大部分は郡内小・中学校の先生方であった。理科指導に熱心な方ばかりで、採集会に児童・生徒と共に参加される先生方も多かった。敗戦後の立ち上がる意欲が如何に強かったかがわかる。現在広い丹波地区の会員数（平成6年）は僅か13名、小学校の先生は、只1人という状況である。子供達の自然離れが大きい。

第六回総会－柏原で開催

生物学会総会が丹波に回ってきたのは昭和28年6月、多紀支部の方々と共に柏原で開催された。第1日目の8日、柏原高校第二講堂で9時半から始まった。井上水上支部